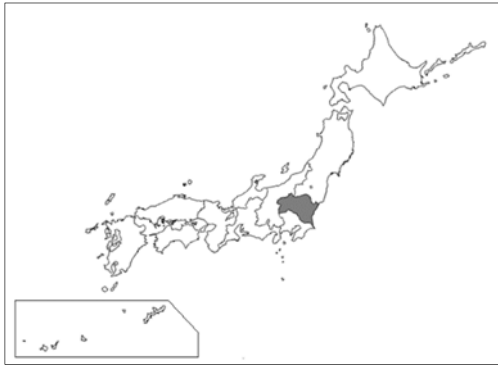


### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

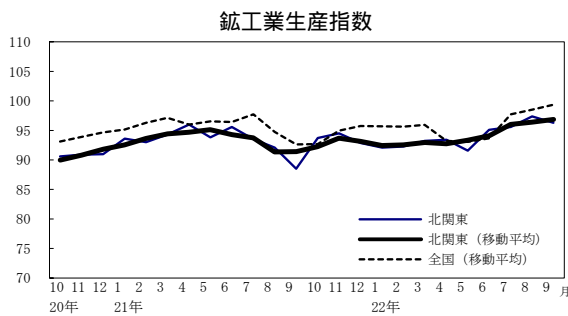
#### 前回からの主要変更点

なし

#### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7－9月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」や「輸送機械」が増加したこと等により、前期比3.3%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 北関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラスチック	20.1	▲1.6	0.0	1.5	▲0.5	▲3.5
輸送機械	18.3	5.2	5.3	1.6	0.5	▲3.7
汎・生産・業務用機械	17.1	3.3	5.9	0.6	5.1	▲2.3
食料品・たばこ	12.1	▲0.3	—	▲0.3	3.5	—
電子デバイス、電気・情報通信	11.2	▲2.8	5.0	1.0	0.4	0.1
鉱工業	100.0	0.9	3.3	0.5	1.9	▲1.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 7－9月期、9月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

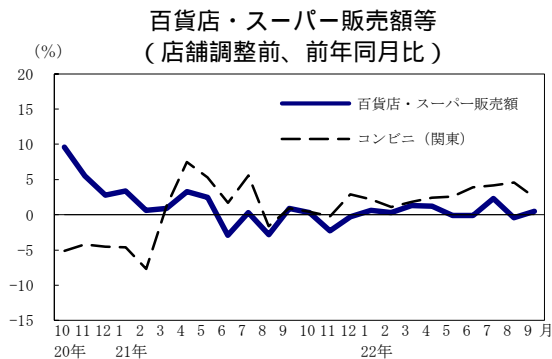
個人消費は緩やかに持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7-9月期は前期比 0.2%増となった。月別にみると、7月は前月比 0.3%減、8月は同 0.0%増、9月は同 0.4%減となった。

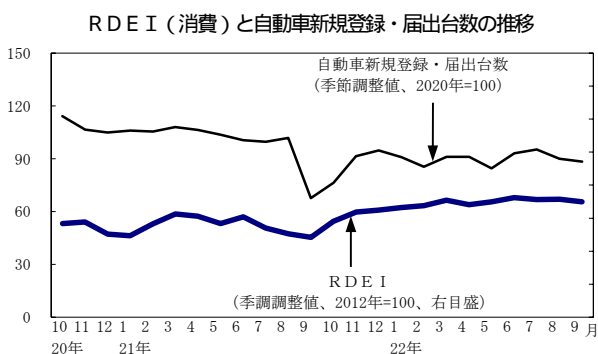
### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比 0.8%増となった。月別にみると、7月は前年同月比 2.3%増、8月は同 0.4%減、9月は同 0.5%増となった。



	2022年7-9月	2022年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.2	▲0.3	0.0	▲0.4
百貨店・スーパー(*2)	0.8	2.3	▲0.4	0.5
コンビニ(*3)	3.8	4.2	4.6	2.5
乗用車(*4)	4.9	▲6.3	▲9.0	32.6
(季節調整値) (*4)	1.8	2.3	▲5.5	▲1.8

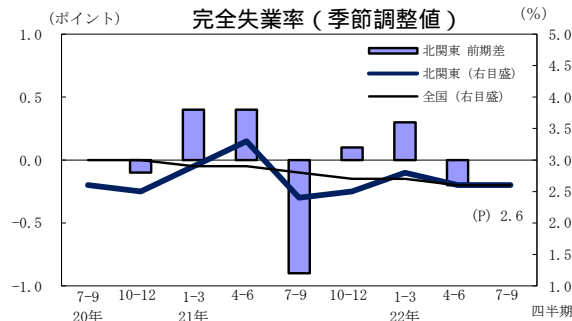
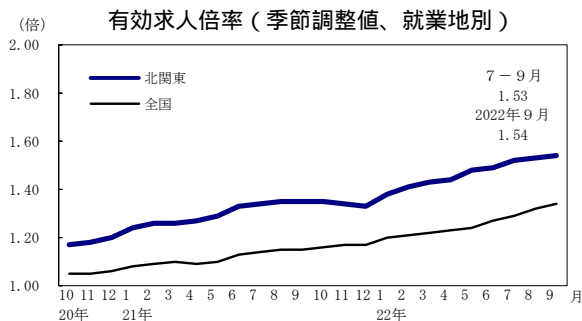
- (備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)  
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
 コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。  
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



- (備考) 1. 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。  
 2. 7-9月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年10月調査）景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・街なかにいろいろとイベントが増えてきている。ただし、人出はあっても、なかなか買物に回る人は少ないようである（衣料品専門店）。
		○	・団体の宴会が増えてきている（一般レストラン [居酒屋]）。
		▲	・リフォームの問合せが止まってしまっている。原材料高などを含めた総工費の高騰や、昨今の円安報道等により、生活防衛意識が強まっている（その他住宅 [住宅管理・リフォーム]）。
	企業動向関連	□	・冬物家電、電気カーペット、石油ストーブ、ファンヒーター、こたつ等の物量が、前年並みの輸送量となっている。輸送コストの上昇による運賃値上げをしている取引先も多少は出てきている。しかし、ドライバー不足や車両確保の厳しい状況は続いている（輸送業）。
		○	・受注残も多く、商談や引き合い件数も増加傾向にある（その他サービス業 [情報サービス]）。
▲		・当社の得意先は40社ほどあるが、通常、半数以上の会社から毎月何らかの受注がある。今月になって全く注文がなかったり、注文数が減少した会社が多く出てきている（一般機械器具製造業）。	
雇用関連	□	・派遣求人数に変化はない。時給が高い求人の人が集まり、時給の低い求人には応募が少ない傾向等にも変化はない（人材派遣会社）。	
	×	—	
その他の特徴コメント			○：夜の動きは良くないものの、昼の動きが良かったので、新型コロナウイルス感染症の発生前の同月と比べて、4%の増収である（タクシー）。 □：販売量の動きは前年比では若干マイナスとなるものの、2019年比では10%減となり、景気回復までには遠い（百貨店）。
先行き	家計動向関連	□	・全国旅行支援は、既に支援金が枯渇している自治体もあると聞いているので、いつまで続くのかにも左右されると考えるが、現状では12月下旬まで、何とか安定的な旅行支援の継続を求めたい（旅行代理店）。
		▲	・光熱費等やその他食品、ガソリン等、全てが値上げされ、家計がひっ迫しているため、余計な物は買わなくなる（一般小売店 [青果]）。
	企業動向関連	□	・取引先の事業予測によると、変わらない（金属製品製造業）。
		▲	・12月の注文書が来たが、現状では11月の3分の1くらいに落ちている。これから先の見通しが暗くなるような気がする。来月に1月分の注文がどのくらい入るかによって変わるが、ちょっと厳しいかもしれない（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	▲	・人材を募集しても求職者が少ない（人材派遣会社）。
その他の特徴コメント			▲：多くの商材で次々と価格が上がっているため、客の購入行動は、ますます大型店や割安店へ移動するだろう（コンビニ）。 ×：海外情勢が不安定で半導体関連が入荷しないため、更に悪い影響になると予測する（家電量販店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北関東）の推移（季節調整値）

